



ベふっ子の共育

～学校だより・つなぐ8・9月号 巻頭言として～

令和6年8月30日(金)

発行: 摂津市立別府小学校
校長 田中健一郎

夏休みが終わりました。保護者の皆様は夏の毎日を楽しく過ごすことができましたか？ご自身で、子どもたちや家族で、親族の皆さんと一緒に、楽しい時間を過ごされたでしょうか？

いやいや、大人の私は家事に仕事に忙しくて夏休みなどなかったよ、と言う方もおられるかもしれませんね。本当にお疲れ様です。いつもありがとうございます。

私はと言うと、夏休みの間も出勤して会議に出張、研修会にと仕事もたくさんありましたが、少し長めの夏休みもいただいて旅行に行っていました。前回も書いたように海外一人旅へ。

今回行ったところはベトナムのコンダオ島。どこなんそれ？なんでまたそこへ？ですよ。ベトナム南部の大都会・ホーチミンから国内線で1時間ほどさらに南に行った海に浮かぶ離島です。前回の旅の現地ツアーと一緒にになった方から「ベトナム最後の楽園はコンダオ島だよ。海がとても美しい。」と聞いて以来、どんなところなのか是非この目で見てみたいと思いチャレンジしてみました。

先ず以て、外国の島に自分一人で行くということがすでに私の人生史上かなりのチャレンジなのですが、コンダオ島？どこそれ？というくらい日本では知られていないマイナーな場所でしたので、日本で予約できる現地ツアーが見当たらない。そこで、ベトナムの旅行会社のホームページからツアーの予約をしてみるという、だいぶ思い切ったチャレンジをしました。もちろん全て英語表記のサイトです。お金の支払いなどもあるので、随分と慎重に調べておそるおそるではありましたが、翻訳アプリやPaypalといった送金サービスアプリを使いながら進めていくと、見事無事に予約することができました！できるってすごく嬉しい！

本当に今の世の中はインターネット時代。スマホやコンピューターがあれば世界のどこにでも行けるのだとあらためて実感しました。そして、日本ではそのスマホを大人だけでなく子どもたちでさえ一人一台持つのが当たり前のような世の中になっている。そんな時代に私たちは生きているのです。そういう意味ではスマホをどのように使うのか、いや、スマホなどの道具もうまく活用しながら自分がこれまで学んできたことを活かして、目の前にある問題をどのように解決するか、と言う能力を身につけることは、さらにこれからももっとも求められるのだと思います。

さて、旅に出てみて、学校で習ったことってやっぱり大切ななあ、と感じたエピソードを。

旅をしていて必要となるのがまずはお金。タクシーに乗るにも、水を買ったり食事をするにも必ずお金が要ります。街の中で日本のお金は使えませんからベトナムのお金に両替して使うわけですが、これが慣れるまではなかなか難しい。何が難しいかというと、お金の単位が違くと、物を買ったりする時の判断がパツと頭の中でできないのです。それは高いのか安いのか？買うべきなのかどうか？どのお金を出せば良いのか？と言ったことがわからないで迷ってしまう。

ベトナムの通貨はベトナムドン(VND)。今は硬貨は使われず、全て紙幣が使われています。一番大きい紙幣は500,000VND、50万ドン。日本で一番大きい紙幣は1万円ですから、50万と聞くとなんて大変な額・・・と思ってしまうよね。ですが、日本円にしてみると、500,000VNDはだいたい3,000円くらい。えっ？50万なのにそのくらいなの？って頭の中はプチパニックに。通貨は500,000から、200,000、100,000、50,000、20,000、10,000、5,000、2,000、1,000、とたくさん種類があります。そして全ての紙幣には、ベトナム建国の父ホーチミンが同じような感じで印刷されていて、これまた区別もつきにくいのです。

スマホにはレート換算アプリもあるのですが、話している途中で毎回スマホを取り出して調べて・・・と言うのは相手を待たせてしまうのでなかなか難しい。旅の本には、「慣れるまではベトナムドンから0を2つ取って2で割るとだいたい日本円の価値と同じくらいになる」と書かれていましたので、なるほど、それに従って頭の中で計算をしてみました。

ベトナムでの物価ですが、500mlのペットボトルの水は10,000~15,000 VNDくらい。ですから15,000から00取って割る2したら $150 \div 2 = 75$ 円。なるほどこの水は75円くらいか。お昼ご飯で食べたフォーは60,000 VNDだから、00取って割る2したら 300 円。ああ、日本で食べるよりも随分と安いな。という具合に、頭の中では小学校で習うような計算をずっとしていました。そうすることで物の価値の違いがわかりますし、そのためにもこのような計算ができることは本当に便利で大切。今は000と3つ取って $\times 6$ をした方が実際のレートに合うのでそちらの計算式を頭の中ですが、こんな時には小学校で習った計算をすることで、安心して買い物をしたり食事を選んだりできると実感しました。難しい為替レートのことはわからなくても、00取って2で割るという計算ならば小学生からできます。と言うことは、ほとんどの日本人はお金の価値を自分の頭で変換して比較できるということです。算数って将来何に使うん？の答えの一つは、こんな旅先の場面なのかもしれません。

また、海外に行った話をすると必ずと言っていいくらい「英語は話せるんですか？」と聞かれますが、いいえお世辞にも上手には話せません。中学生で習ったくらいの英語レベルで毎回なんとか頑張っています。でも、この中学校時代に習った文法や英語表現は、やはり基本でとっても大切だったのだと今さらながら思います。

今はスマホの翻訳アプリがあるので本当に助かります。ただ、これも相手と会話をしている途中で毎回スマホを見せて $\cdot\cdot$ と言うのは難しいので、これだけはという英語表現は覚えるようにして積極的につぶやくようにしています。それは、「May I have \sim ? (～していいですか?)」と「Would you \sim ? (～していただけませんか?)」という表現。旅をしていると、食べ物、水、チケット、など自分がほしい物を伝えて相手からもらったり、相手にしてほしいことをお願いする場面がとても多いので、そのお願いの仕方ですできるだけ丁寧な表現を使って伝えるようにしています。丁寧にお願いされてイヤと感じる人はまあいないでしょうから。

あとは相手が言った内容をうまく聞き取れないことも多いので、「Sorry(ごめんなさい、もう一度)」と言って聞き直すことも多いかな。～へ行ったことがありますか?と言う会話も意外と多いので、「Have you been \sim ? (～へ行ったことがありますか?)」「Never(一度もありません)」と言う表現も頑張って使うようにしています。

私もそうですが、日本で暮らす多くの人は外国人の方と英語でコミュニケーションを取る機会はまだあほぼないと思うので、普通に生活していたら英会話なんて上達しないですよ。英語ができるようになりたいと思い、私も過去にオンライン英会話に入会したり、NHKラジオ英会話を聞いてみたりはしましたが、覚えなければ、理解しなければ、という努力と根性だけではなかなか長続きしないものです。それでも旅に出てみると、やっぱり英語って世界共通語なんだな、いろいろな国の人に意志を伝える共通伝達ツールなんだなと実感しますし、逆に日本語って世界では全く伝わらないんだなとも思い知ります。

今回旅行したベトナムには公用語としてベトナム語があります。実は私はベトナム語が全くわかりません。町の中の看板も、レストランのメニューも、ベトナム語だけで書かれていると何を伝えているのかが全くわからないのです。でもそこに英語での表記も書いてあれば、なるほど何となく想像ができる。考えたり判断できるきっかけになるのです。それはこれまで英語を学んできたおかげです。

現在の日本では、全ての人が小・中と7年間、そして人によれば高・大学と10年以上も学校教育として英語を学ぶ機会があります。考えてみれば、これは実はすごいこと。なぜなら、多くの日本人は世界のどこに行っても英語表現ならば理解できる可能性があるからです。世界を見渡したとき、学校で英語を学ぶことが当たり前ではない国もたくさんあります。英語はおろか自分の国の言語さえも学ぶことが難しい国もありますし、全ての人が等しく教育を受けるということが難しい国だってあります。そういう意味でも、全ての人が当たり前のように教育を受ける権利がある日本は本当に恵まれた国なのだと思います。

学ぶことの楽しさ。ありがたさ。自分の世界が広がる有用感。そんなことを目の前の子どもたちにどれだけ実感させることができるか。一生懸命考えてみたい我々大人の責務でもあります。

かわいい子には旅をさせよ。世の中に出して難しさやつらさも経験させる、という

意味合いですが、本当に自分で旅をさせちゃうのもよい経験になると思います。

